山弓連

平1~15

1.5.25

宮下(黎)・中込(三段)が皆中で優勝
―県下選手権大会―

四月二十三日開催された県下選手権大会には百名の選手が参加して熱戦を繰りひろげた結果、次のとおり入賞者が決定した。その中で宮下・中込両選手の八射皆中が光った。

種別	順位	優勝	準優勝	三位
女子の部		荒喜久子 中5	山下真由美 4中	上野清子 4中
三段以下の部		渡辺俊幸 中6	白須吉人 5中	伊藤弘 5中
三段の部		中込実 8中	中山玄男 4中	千葉屋産 4中
四段の部		雨宮哲 6中	萩原英寿 6中	和智一雄 5中
五段の部		望月勝男 6中	土橋亨 6中	塩島健二 5中
都号の部		宮下貞雄 8中	佐野辰巳 7中	不動光照 7中

なおこの日の選手権大会の成績を参考にして、上記大会選手候補を選考した結果、次の通り第二次候補が決まり、十月九日の第三次選考会で最終決定することになった。

全日本選手権大会・全日本選抜選手権大会の第一次選手候補者

●全日本選手権大会

河西伊三男　中沢利正　佐野忍　上条皎
深沢寛　田中幸正　小林武秀　佐野辰巳
深沢武重　秋山照美　藤巻啓子　標衣枝(前年度者)

●関東選抜選手権大会

佐野辰巳　不動光照　小尾幸夫
高部保延　横谷勇　深沢武重　河西伊三男
標衣枝　佐野忍
望月勝男　土橋亨　塩島健二　小宮庫甫
深沢寛　小松健　古屋端元　古屋周二
萩原英寿　岡野哲　橋田幸次　信田周二
赤地美秀　和智一雄

初めて四百
◆京都審査 四名合格

五月五・六の両日行われた京都中央審査には、山梨から延べ二十二名が挑戦したが、みごと四名が合格した。(合格率18%)

七段　秋山照美(甲府)
六段　掠衣枝(東山)
教士　天野裕(敬愛)
錬士　長田長久(東八)

日頃の修練の成果がみのった。おめでとうございます。

五月十四日
査定審査

に施行された査定審査の結果は次の通り。

○申込み数90名(内女席3)
○初段合格29名
○一級合格43名
○二級合格19名
○三級以下は無し。

但し二級と査定された者の内、六名が登録手続きを済ませないため、合格は取り消し、随って合格実員は十三名となる。

審査会で気がついたこと
(今後注意してほしいこと)

○申請書の提出期限過ぎてからの申しこみがかなりあった。事務処理がたいへんです。期日厳守を。
○本人は出席しているが、申請書が届いていない」というケースが何件かあって、申請書の所在や提出ルートを確かめるのに苦労。こんな無駄手間は是非なくしたい。
○申請書記載事項の誤記(生年月日・住所など)も何件か。申請書記入も審査の一部と心得て真剣に慎重に願います。
○「既得級位」欄に、前回未登録の級位を記入したのがあった。気をつけてほしい。
○学生の場合、かな学「学校名」と「学年」を忘れずに記入すること。合格認証状は各支部・各学校毎に一括して郵るので「住所」だけしか書いてないと一般支部に納れこんで行方不明になるおそれがあるので。

段位審査
―五月二十一日―

会場の都合により初段は機山王南、二・四段は甲府昭和高校と二会場に分けて実施。

	受審者	合格	合格率
初段	一九五名	二〇名	五六%
二段	九三名	五二名	五六%
三段	五三名	一九名	三六%
四段	一五名	五名	三三%

○入場・退場のしかた、歩きかた、弓の持ち方など基本的動作の練習不十分な者がいた。(特に高校生に多い)
○審査前には十分な時間が必要。しかし一方、大人額負けの立派な所作をする生徒も大勢いたから、これは練習量の問題。
○射技についても、上下の格差が大きいと感じた。

山弓連の歴史を創ってきた人々(No.5)

弦友館

敬業(永家)
むめ(一男)
誠(優秀)

弦友館古屋弓道場は明治初期に建てられ、以後約一世紀の間に実に多くの弓人を育ててきた。

古屋勝雄氏と

古屋家の先祖は東山梨郡上石村の出身で、その当時から自宅に弓道場を設けていたという。古屋家と弓道のつながりは随分長い歴史をもっていることになる。そういう意味でも古屋勝雄氏は弓人の中の弓人といえよう。

古屋勝雄氏は明治初期に生まれ、父敬業氏から弓道の手ほどきを受けた。氏が生まれた明治初期の甲府市は、現在の甲府市とは異なり、現在の甲府市の中心部は甲府城を中心とした城下町であり、今津藤氏は当時「何を外しても弓だけは外すな」と言われた程の弓道家であった。